

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290200203		
法人名	株式会社大曲仙北介護支援事業所		
事業所名	グループホーム賀田		
所在地	弘前市大字大久保字西田98-4		
自己評価作成日	令和3年8月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	青森県社会福祉協議会		
所在地	青森市中央3丁目20-30		
訪問調査日	令和3年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自立支援を心掛け、生活の中でできる事は行っていただくと共に、お互いの助け合い精神も大切にしている。
職員に関しては、利用者様の尊厳を大切に、心にゆとりを持ちながら接してもらうように心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは市郊外の閑静な住宅街に立地しており、近隣の小学校等、地域資源に関わりながら、交流を図るための働きかけを行っている。
また、利用者がその人らしさを大切にしながら家庭的な生活を送れるよう、一人ひとりに丁寧なサービス提供を行うように努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を取り入れ、地域との交流、家庭的な生活、尊厳を大切にされた支援を提供している。	ホーム独自の理念を掲げ、玄関やホール等に掲示しているほか、毎月発行の広報紙に記載している。管理者及び職員は地域密着型サービスの役割を理解し、地域での生活継続と尊厳を大切にされた支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染拡大の影響で、一昨年以来、町内会の夏祭りは中止し、近隣の小学校から行事の招待も今は行われていない。	コロナ禍前は町内の夏祭りへの参加のほか、近隣小学校から様々な行事の招待があり、今後も継続して交流を図れるように準備している。また、町内会へ加入しているほか、運営推進会議には地域住民にも参加していただいている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	一昨年までは運営推進会議を開催していたが、コロナウイルス感染拡大防止のため、書類による開催となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	「新型コロナウイルス感染症対策の基本方針」に基づき、文書による開催に変更している。委員からはコロナウイルスについての意見や要望を文書でいただいている。	家族代表や行政職員、民生委員、小学校校長、駐在所職員等がメンバーとなり、2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、ホームの状況や行事等の報告を行っている。現在は書面により開催しており、メンバーから意見等をいただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現在はコロナウイルス感染予防のため、文章や電話等で協力していただいている。	コロナウイルス感染対策のため、電話やメール等で連絡を取り合い、水害時のハザードマップや新型コロナウイルス感染症対策等、課題解決に向けて行政と連携を図っている。また、地域包括支援センター主催の認知症カフェにも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止及び適正化委員会を設置し、3ヶ月に1回研修を行っている。また、新規採用職員研修も同時に行っている。	身体拘束に関するマニュアル等を整備し、定期的な内部研修等で理解を深めている。また、身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1回開催し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	代表者から虐待防止についての研修が行われている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を必要とする該当者がいるため、関係機関と連携・協議をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族からの入退所等の相談や要望には、不安を解消できるように迅速に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置することで、意見や苦情を出しやすいように働きかけている。	面会時を利用したり、意見箱の設置や運営推進会議への参加等、利用者や家族が意見を出せる機会を確保している。また、出された意見等には速やかに対応できるよう、管理者や施設長への報告体制を整えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に個人面談を行い、スタッフ会議等でも意見を聞いている。	月1回の全体会議でホームの運営等について意見交換を行っているほか、年1回、代表者との面談も行っている。また、ユニット会議や朝・夕の申し送り時に都度話し合いを行い、働きやすい環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の相談に応じ、やりがいを持てるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な研修への参加や職場内研修にて対応しているが、現在はコロナウイルス感染予防のため、研修への参加は自粛している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症カフェに参加して交流を図り、同業者とは随時情報交換ができるように体制を整えている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始するにあたり、困り事や不安、要望を傾聴し、伝えることが困難な場合は気持ちを読み取り、安心感を与えられるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の段階で本人、家族と話し合い、意向に耳を傾けることで信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いの中で一番の困り事をケアプランに取り入れ、他の職種と連携し、必要なサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができる事は行っていただき、その人らしさを大切にした家庭的な生活を送れるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や広報新聞で日頃の状況をお伝えし、家族と共に本人を支えていけるような取り組みを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナウィルス感染予防のため、ガラス越しでの面会となっている。昨年よりリモートでの面会も実施し、関係継続の支援に役立っている。	利用者がこれまで関わってきた人や馴染みの場所を把握し、できる限りの対応に努めており、電話の取り次ぎや年賀状のやり取り等の支援をしている。また、リモート面会を実施したり、ビデオレターが送られてきた際は利用者の動画を返信し、関係継続の支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の性格を把握し、関係が悪化しないような環境作りで、トラブルを未然に防ぐように努めている。また、軽作業等で持てる力を出し合い、関わりを大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所される利用者の今後の方針、情報、ケア等を退去先の関係者に伝え、相談や支援に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一日の過ごし方について心身の状態等を記録しており、情報を共有し、利用者の視点に立って日々のケアを行っている。	担当制を配置して、利用者の一日の過ごし方や心身の状態等をケース記録に記録しており、表情や細かな動きからも利用者の意向を察することができるように努めている。また、必要に応じて家族等からも情報収集を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の段階で家族や本人、支援担当者と共に話し合い、今までの生活の経緯をアセスメントし、情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方や心身状態、排泄状況等をケース記録に記入し、把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会が頻回にある家族には計画書の説明がなされているが、家族と疎遠の方については、本人の意向を取り入れた介護計画を作成している。	担当職員は利用者一人ひとりがその人らしさを大切にし、家庭的な生活を送れるよう、理念を再確認した個別具体的な介護計画の作成に取り組んでいる。また、必要に応じて、家族や関係者等の意見も聞きながら、利用者の思いや意向に沿った介護計画となるように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	担当者を中心に申し送りやケア会議等で情報を共有し、記録に残して介護計画の見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍で外出を自粛しているため、施設内で四季を感じることのできるレクリエーションを提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の小学校行事や町内の夏祭りへの参加でコミュニケーションがとれることにより、楽しい生活に繋がっている。今年もコロナの影響で中止となっているが、再開後は継続していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医を希望されている場合はその意向を汲み、継続していただく。また、連携医療機関を受診する際も、家族と利用者の了解を得ている。	利用者のこれまでの受療状況を把握し、適切な医療を受けられるように支援しており、医療機関の往診もある。また、ホームでの通院介助や家族等の協力後の受診結果報告等、双方で情報を共有できるように取り組んでいる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在は看護職員は不在だが、かかりつけ医の看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時にはサマリーを活用し、病院関係者と情報交換を行っている。必要に応じて担当者会議を開き、連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアは行っておらず、重度化した場合は家族や医療関係者と連携を図りながら、今後の方針を話し合う体制である。	今のところ重度化や終末期の対応は行っていないが、急変時の対応については、利用者や家族、医療機関と適時連絡や話し合いを行い、意思統一を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成して全職員に周知徹底し、応急手当や初期対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練(夜間訓練を含む)や近隣の消防署との連絡体制を強化し、消防署から指導を受ける予定となっている。	コロナ禍のため避難訓練を実施していないが、今後は年2回の防災訓練(夜間訓練を含む)のほか、消防署や地域住民との協力体制を整え、利用者を適切に避難させることができるよう、消防署からも指導を受ける予定である。また、災害発生時に備えて、食料や飲料水、防災バッグ等を用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念の中で「尊厳を大切に生活提供」として挙げており、適切な声掛けやプライバシーに配慮した対応を心掛けている。	理念に掲げている「尊厳を大切に生活提供」を心掛け、言動を否定したり、拒否しないケアに取り組んでいる。また、利用者の羞恥心やプライバシー等に配慮した声掛けに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣服や買い物時の購入品を自分で選ぶ等、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や能力、本人の希望やペースに合わせた援助内容で実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が希望される場合にはカットや髪染め、髭剃り等、身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後の後片付けを中心に、利用者が進んでお手伝いをされている。また、行事食を取り入れ、食事が楽しめるように取り組んでいる。	利用者の嗜好や好みに対応した食事を提供しており、可能な限り職員も利用者と一緒に食事を摂り、和やかに食事時間を過ごしている。また、利用者の状況や意思等に応じて、調理の準備や後片付け等も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	残食や水分摂取量を把握し、好みや苦手なものを考慮しながら、バランスのとれた食事を提供している。水分は好みを重視し、摂取しやすいように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人ひとりの状態や能力に応じたケアを毎食後実施し、歯科医師と連携をとりながら、口腔状態の観察ができるようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	表情や行動を観察し、トイレでの排泄が可能となった利用者は陰部のただれもなくなり、便秘も改善傾向にある。	利用者の排泄パターンを記録・把握し、事前誘導をしながら、排泄の自立に向けた支援に取り組んでおり、おむつの使用についても検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日リハビリ体操を行い、排泄チェック票を活用しながら、水分摂取量の確保に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	その日の体調を考慮して声掛けをしている。また、入浴剤を使用することによりリラックスでき、心身の安定や安眠につながるよう支援している。	入浴習慣や好みを把握し、その日の体調を考慮した入浴支援に取り組んでいる。基本的に週2回の入浴を行っており、利用者一人ひとりに適切な支援を提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを尊重し、個々に休息されている。就寝時は一緒に入床準備を行い、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の管理は施設で行い、一人ひとりの病気を把握した上で職員がチェック表を活用し、飲み忘れがないように取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所前の生活の継続支援を心掛け、畑の水遣りや収穫、食後の後片付け等、それぞれの能力を活かせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	以前は施設の外出行事や地域行事への参加、食材の買い出しに同行していたが、現在はコロナウイルスのため自粛している。	コロナ禍のため、外出行事や地域行事への参加等は難しいが、近くの公園や桜並木道、紅葉等を見に出かける等、工夫しながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物外出の際、財布から支払いができるように援助している。家族の同意のもと、小銭程度の金銭を所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等へ電話の依頼や本人への電話の取り次ぎを行っている。手紙やはがきの代筆や代読の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度は頻回にチェックを行い、眩しい光や大きな音等、刺激がないように配慮している。また、季節を感じられるような生花や飾り付けを一緒に行い、心地良い居住空間を提供している。	ホールは家庭的な雰囲気を保てるように配慮し、季節を感じられる生け花や飾り付け等、職員と利用者が一緒に行っている。また、温度・湿度や明るさを適切に保ち、心地良い居住空間となるよう取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファやテレビがあり、気の合った利用者同士でテレビを視聴したり、談笑できる共同空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と一緒に写した写真やはがき等を飾り、好きな洋服に囲まれ、思い思いに安らぐ空間になるように使用されている。	利用者や家族に馴染みの物を持参してもらうように働きかけ、家族写真や小物、洋服等が持ち込まれている。また、利用者が居室において、清潔で居心地良く過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室等には目印を表示し、混乱しないように配慮している。居室内はスムーズな動線を確保し、できる事やわかる事を継続して行えるように支援している。		